

2012年3月6日

報道関係者各位

地域政党京都党

「京都マラソンと京都市政に関する市民意識調査」を実施
京都マラソン沿道でオススメの場所「平安神宮」「渡月橋」「京都御所」
京都マラソンに出場してほしい有名人、京都出身「徳井義実」「佐々木蔵之介」「伊達公子」

地域政党京都党は、2012年1月30～1月31日の2日間、にかけ20歳以上の京都市民約300名を対象に、2012年3月11日に第一回の開催が迫った京都マラソンや、関連する京都市政の課題に対して「京都マラソンと京都市政に関する市民意識調査」をインターネットリサーチで実施、309名の有効回答を集計しました。

これは、地域の実態や市民の細かいニーズを活かした真の住民自治を目指す京都党が、市民の皆様のご意見を政策論議に反映させる取り組みの一環として実施したものです。

主な調査結果は以下の通りです。

- 京都マラソン沿道でオススメの場所「平安神宮」「渡月橋」「京都御所」
- 京都マラソンに最も期待すること「京都市のブランドイメージ向上、市外からの訪問客増加」
- 京都マラソンに出場してほしい有名人、京都出身「徳井義実(チュートリアル)」「佐々木蔵之介」「伊達公子」が上位。男性は「上戸彩」「大島優子(AKB48)」女性は「向井理」「相葉雅紀(嵐)」
- 市外から訪れるランナーや観客に味わってほしい京都の魅力は「景観」や「街並み」マラソンならではの「地理的な大きさを体感できる」「走った後は甘い物で糖分補給」という声も
- 京都市が今後、観光客誘致のために開催していくべきイベント「歴史」「伝統工芸品」「グルメ」が上位。男性は「マンガ・アニメ」女性は「音楽」「アート」にも着目
- 更なる入浴観光客の増加、7割超が好意的に捉える
- 観光客誘致で不快に思った経験「交通渋滞」「バス混雑」
- 交通規制を避けてほしい時間帯「特に敷いてほしくない時間帯はない」4割週末の日中、および月曜朝を避けてほしい
- 東日本大震災からの復興支援に対して京都市はできる限り積極的に協力すべき66.3%
- 瓦礫を含む災害廃棄物受け入れ、「受け入れるべき」4割弱と慎重な見方

【調査概要】

- 調査対象 株式会社マクロミルのモニター会員を母集団とする京都市在住の20歳以上の男女
- 調査期間 2012年1月30日～1月31日(インターネットリサーチ)
- 有効回答数 309サンプル
- 実施機関 株式会社 マクロミル
- 調査協力 特定非営利団体 MPI

【本件に関するお問い合わせ先】地域政党京都党 担当:江村

TEL075-354-6225

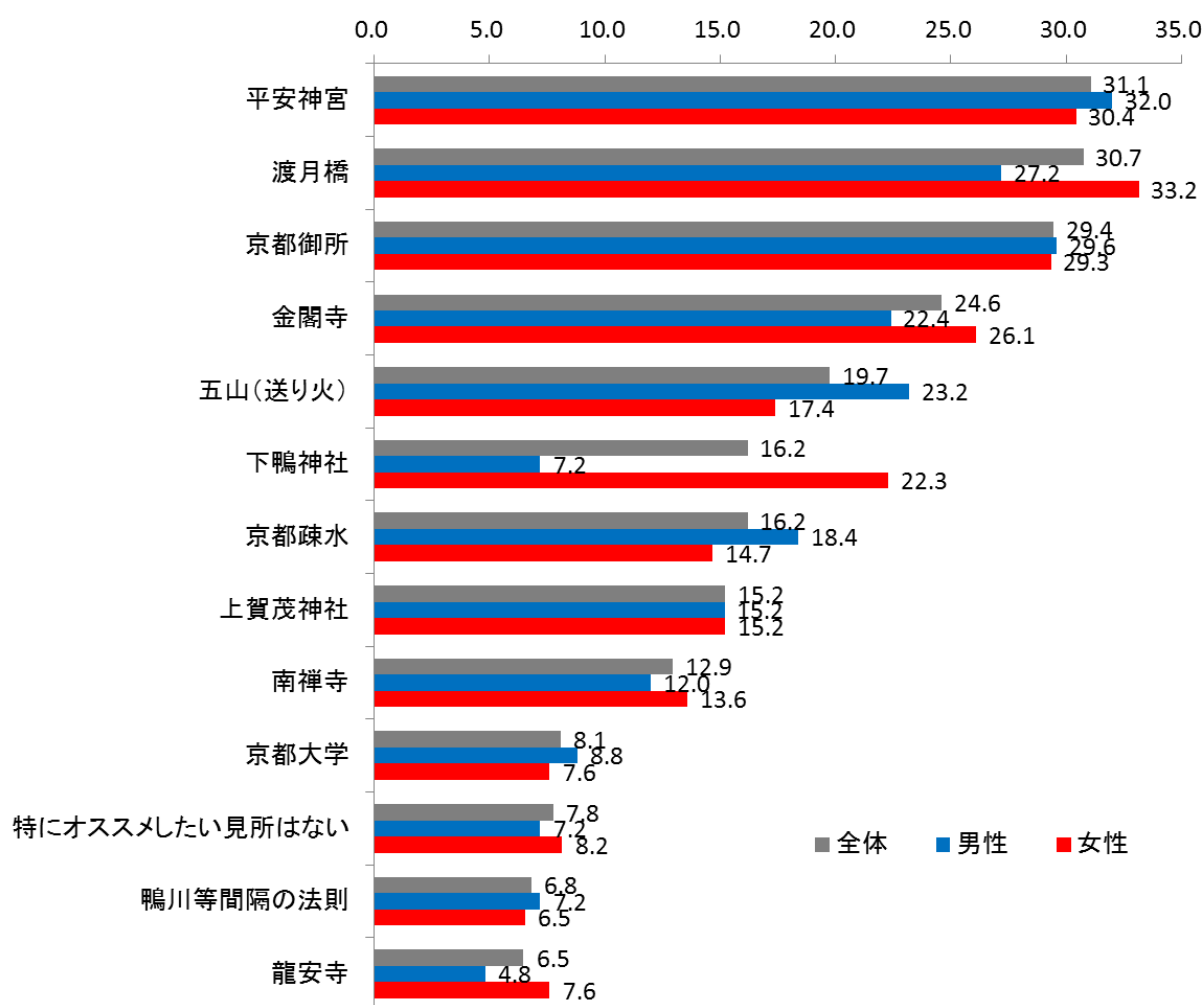
京都マラソン沿道でオススメの場所「平安神宮」「渡月橋」「京都御所」

「下鴨神社」女性に人気。学生は「鴨川等間隔の法則」会社員は「天下一品本店」を支持

20歳以上の京都市民約300名に京都マラソンの沿道やその周辺でランナーや観客にオススメしたい見所を3つまで選んでもらったところ、トップ3は「平安神宮(31.1%)」「渡月橋(30.7%)」「京都御所(29.4%)」となり、観光でおなじみの文化財や景勝地が上位を占めました。

男女別では、下鴨神社において女性(22.3%)が男性(7.2%)の3倍以上となり、20歳以上の京都市民の女性にとって下鴨神社が魅力的であると認識されていることがわかりました。

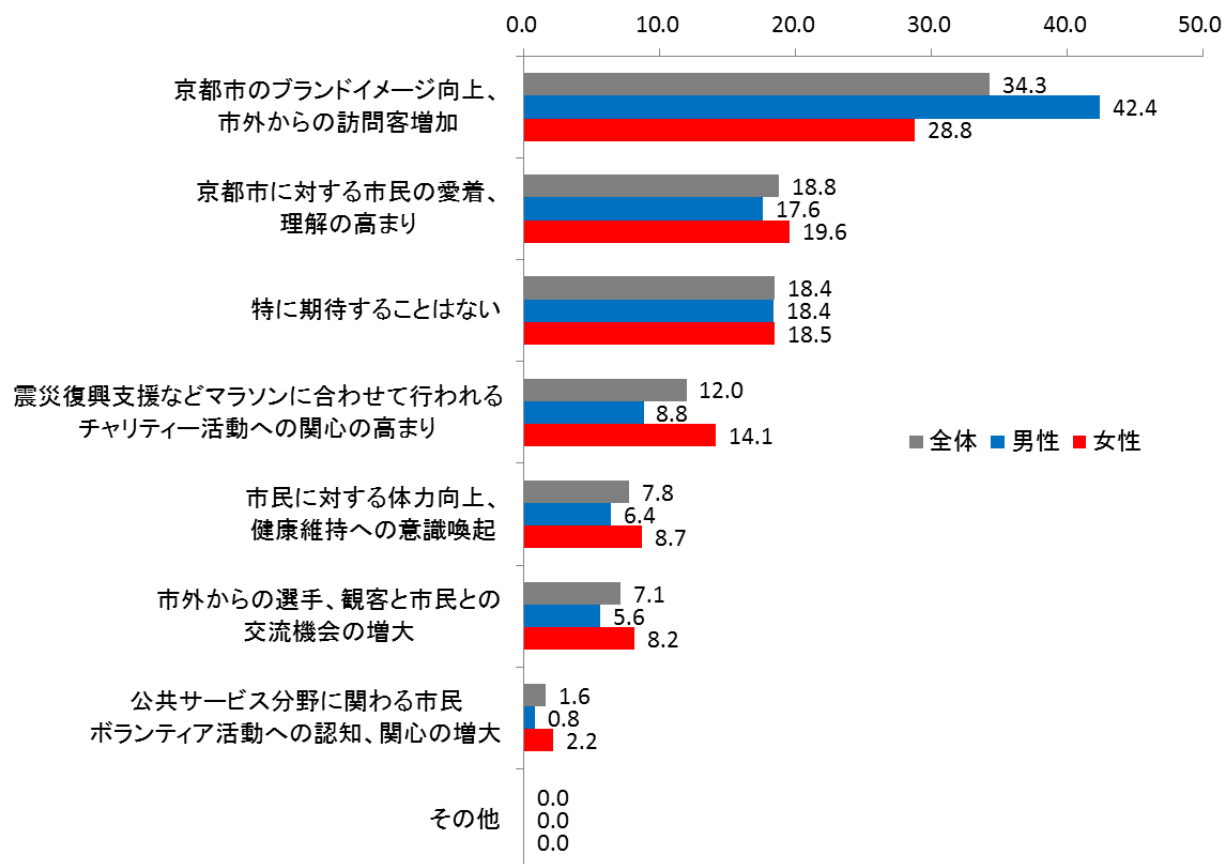
◆京都マラソンの沿道周辺で、ランナーや観客にオススメしたい見所(複数回答 N=309)



京都マラソンに最も期待すること「京都市のブランドイメージ向上、市外からの訪問客増加」

20歳以上の京都市民約300名に京都マラソンに最も期待することを選んでもらったところ、「京都市のブランドイメージ向上、市外からの訪問客増加(34.3%)」が最も多く、「京都市に対する市民の愛着、理解の高まり(18.8%)」が続くなど、国内外からの入洛客による経済波及効果や、都市ブランドの向上といった京都市側の開催目的が一定の理解を得ていることが分かりました。

◆京都マラソンに最も期待すること(単一回答 N=309)

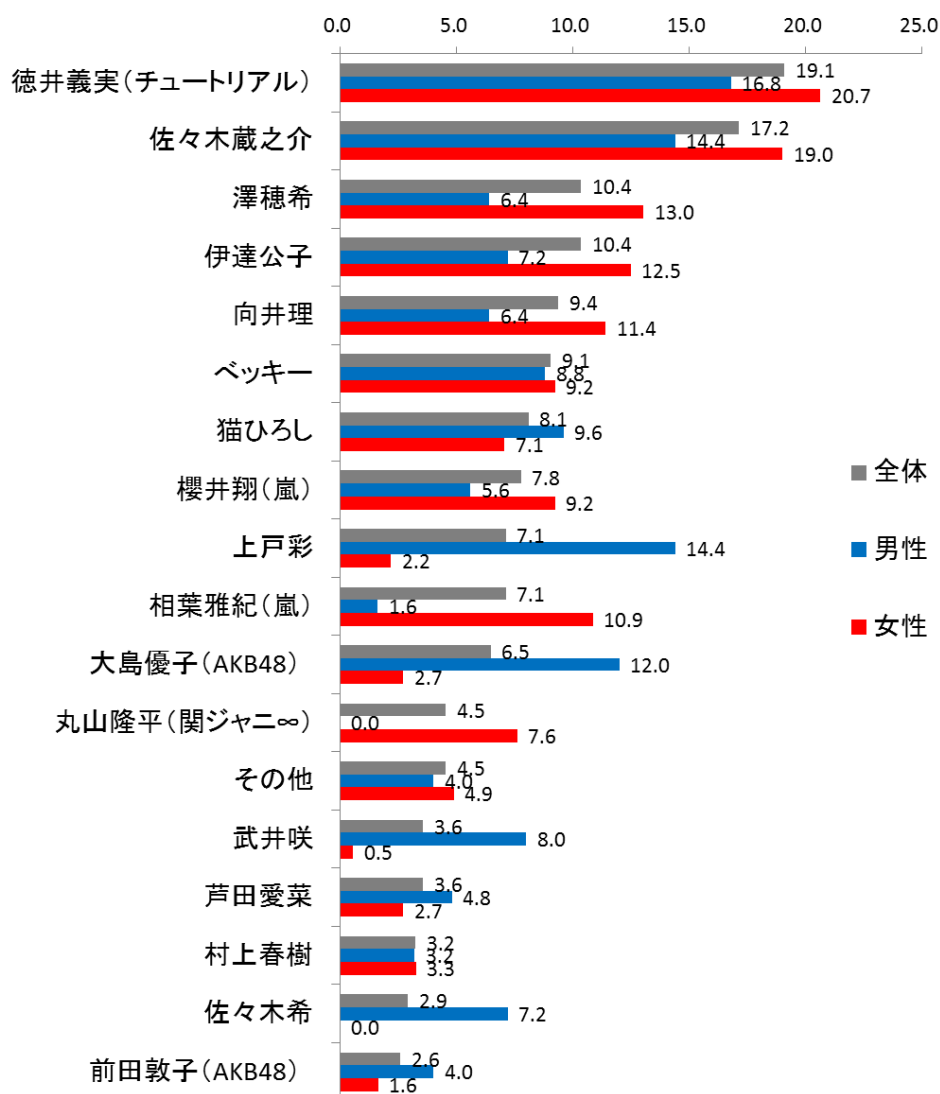


京都マラソンに出場してほしい有名人、京都出身「徳井義実(チュートリアル)」「佐々木蔵之介」「伊達公子」が上位。男性は「上戸彩」「大島優子(AKB48)」女性は「向井理」「相葉雅紀(嵐)」

20歳以上の京都市民約300名に京都マラソンに出場してほしい有名人を2人まで答えてもらったところ「徳井義実(チュートリアル)(19.1%)」「佐々木蔵之介(17.2%)」「伊達公子(10.4%)」と、地元・京都ゆかりの有名人が上位を占めました。

「上戸彩」「大島優子(AKB48)」「武井咲」「佐々木希」は男性に人気があり、「向井理」「相葉雅紀(嵐)」が女性に人気でした

◆京都マラソンに出場してほしい有名人(複数回答 N=309)



市外から訪れるランナーや観客に味わってほしい京都の魅力は「景観」や「街並み」 マラソンならではの「地理的な大きさを体感できる」「走った後は甘い物で糖分補給」という声も

20歳以上の京都市民約300名に、京都マラソンに市外から訪れるランナーや観客に味わってほしい京都の魅力を自由回答形式で聞いたところ、全309人中47.9%にあたる148人が、京都の「景観」や「街並み」に関する魅力を挙げました。具体的には、「五山の送り火の山々をすべて見るので、近くから、遠くから満喫してほしい(20代女性・学生)」など自然の景観に関するコメントや、「古都の街並みと近代建築の調和を見てほしい(40代男性・会社員(技術系))」といった京都の町並みの特徴に触れた意見が目立ちました。

「観光スポット・文化財」については22%(68人)が意見を寄せ、特に「小道だったり、小さい神社だったり、碁盤の目のような道路だったり、街中を歩くとすぐ見つかる京都らしさ・日本らしさを味わってほしい(20代女性・学生)」「南のほうにも足を延ばしてほしい(40代女性・会社員(事務系))」「体験型の伝統産業 組紐、染め、陶器、象嵌も楽しんでもらいたい(50代女性・会社員(事務系))」など、京都市中心部にある有名な寺社以外の新たな見所を薦める意見が目立ちました。

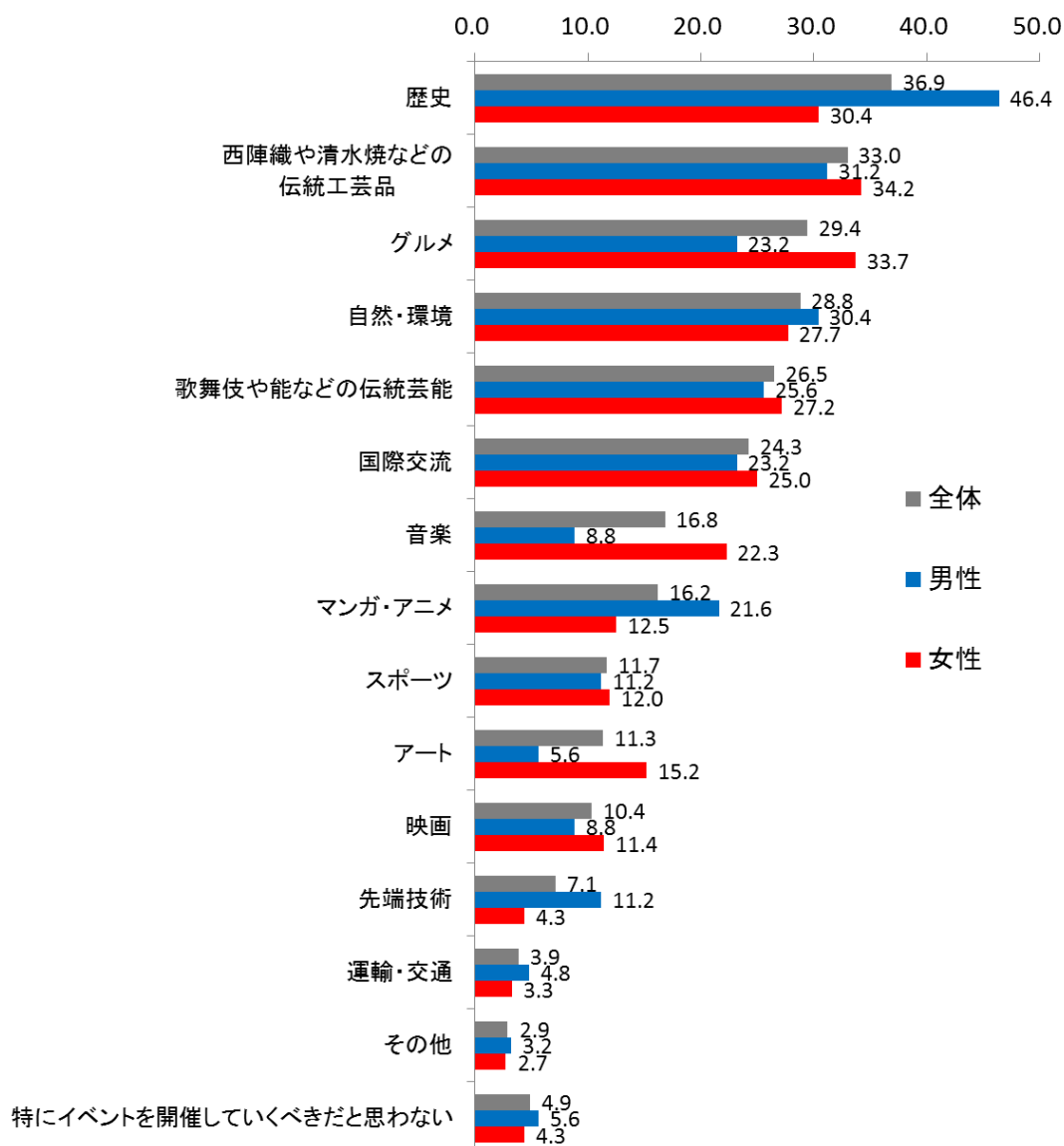
その他、「ガイドブックではなかなか観光地から観光地(たとえば金閣寺から嵐山まで)への距離感がつかめないと思いますが、マラソンで京都市内を走ることによって京都の地理的な大きさを体感できるのは本当に羨ましい(30代女性・専業主婦)」、「ひとりひとりが京都が好きって思えるように、古きよき都と、新しい事が大好きで活気のある学生の町を感じて欲しい(20代女性・専業主婦)」「美味しいお菓子がたくさんあるので、走った後は甘い物で糖分補給して欲しい(20代女性・会社員(事務系))」など、京都全体の雰囲気・空気を楽しんでほしいという回答もありました。「特にない・関心がない」は10.7%でした。

**京都市が今後、観光客誘致のために開催していくべきイベント「歴史」「伝統工芸品」「グルメ」が上位。
男性は「マンガ・アニメ」女性は「音楽」「アート」にも着目**

20歳以上の京都市民約300名に京都市が今後、観光客誘致のために開催していくべきイベントについて選んでもらったところ、「歴史(36.9%)」「伝統工芸品(33.0%)」「グルメ(29.4%)」が上位となりました。また、京都マラソン3日後の3月14日に開業する京都水族館にも関連した「自然・環境(28.8%)」が全体の4位となりました。

男性では「マンガ・アニメ(21.6%)」、女性では「音楽(22.3%)」「アート(15.2%)」がそれぞれ高く、国際観光都市・京都に対し、市民が多様なとらえ方をしていることが分かりました。

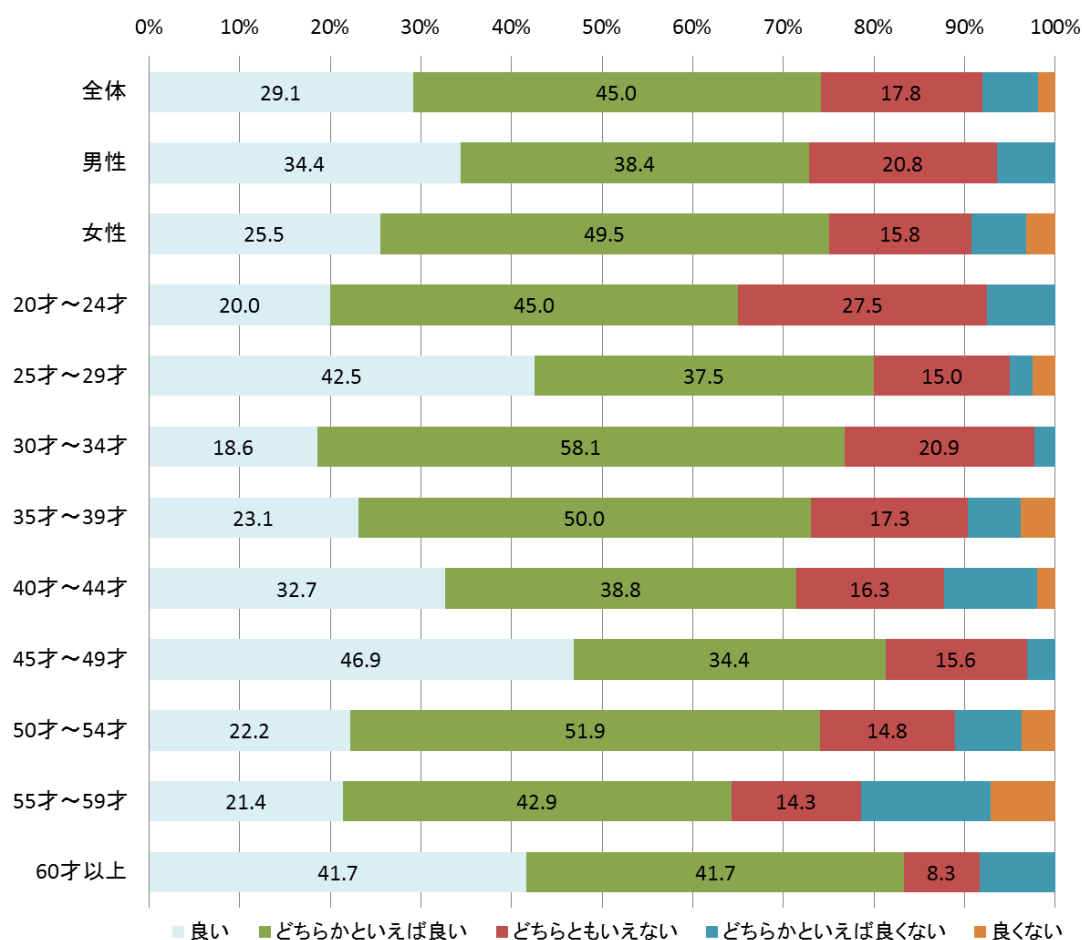
◆京都市が今後、観光客誘致のために開催していくべきイベントのジャンル(複数回答 N=309)



更なる入洛観光客の増加、7割超が好意的に捉える

20歳以上の京都市民約300名に、2011年2月5日の京都市長選における門川大作市長のマニフェストでも掲げられた入洛観光客の増加について聞いたところ、「良い(29.1%)」「どちらかといえば良い(45.0%)」を合わせ7割以上の市民が肯定的な見方を示しました。

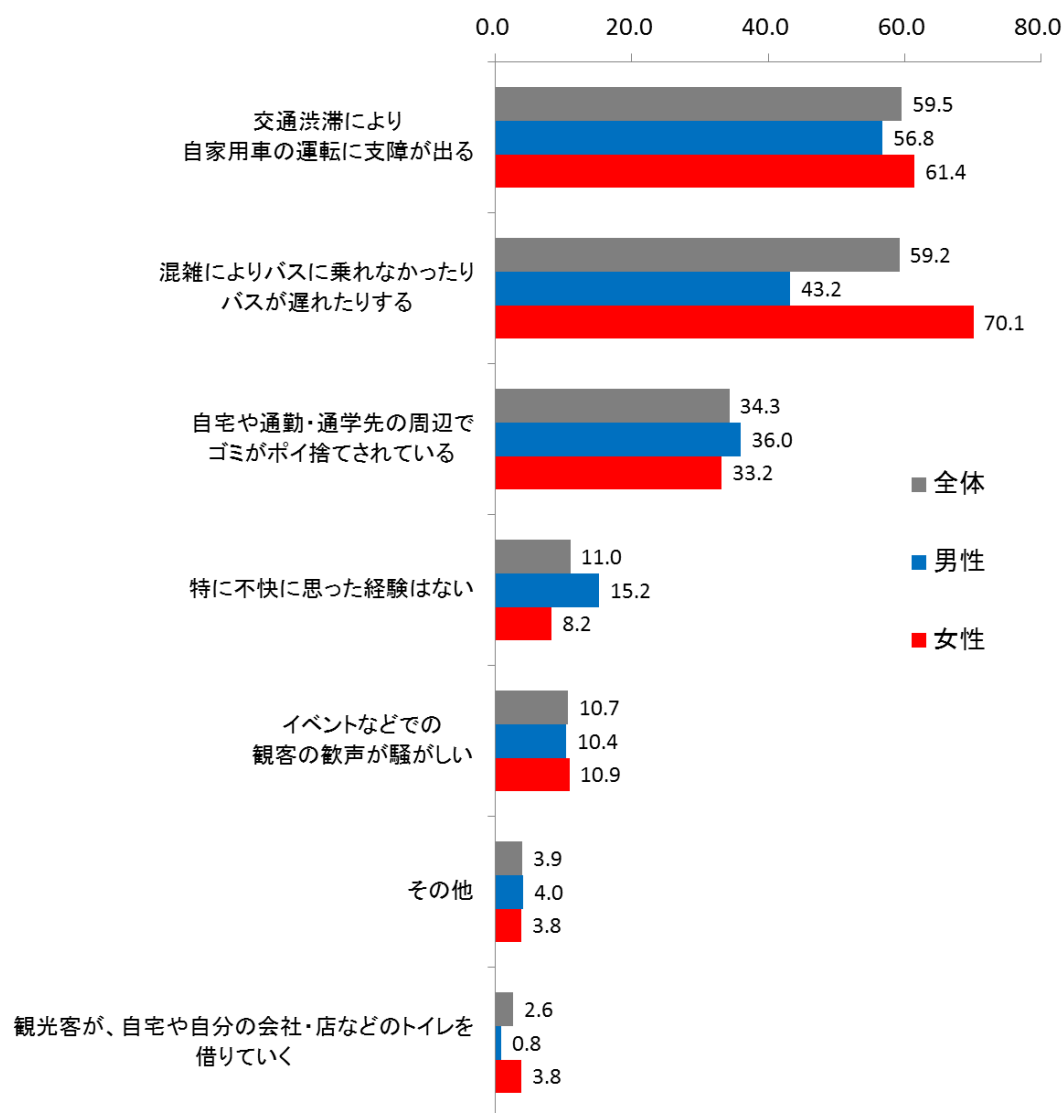
◆入洛観光客の増加について(単一回答 N=309)



観光客誘致で不快に思った経験「交通渋滞」「バス混雑」

20歳以上の京都市民約300名に、観光客誘致で不快に思った経験を聞いたところ、「交通渋滞により自家用車の運転に支障が出る(59.5%)」「混雑によりバスに乗れなかったりバスが遅れたりする(59.2%)」と、観光客の増加などによる道路交通網の混雑に関する事項が上位を占めました。

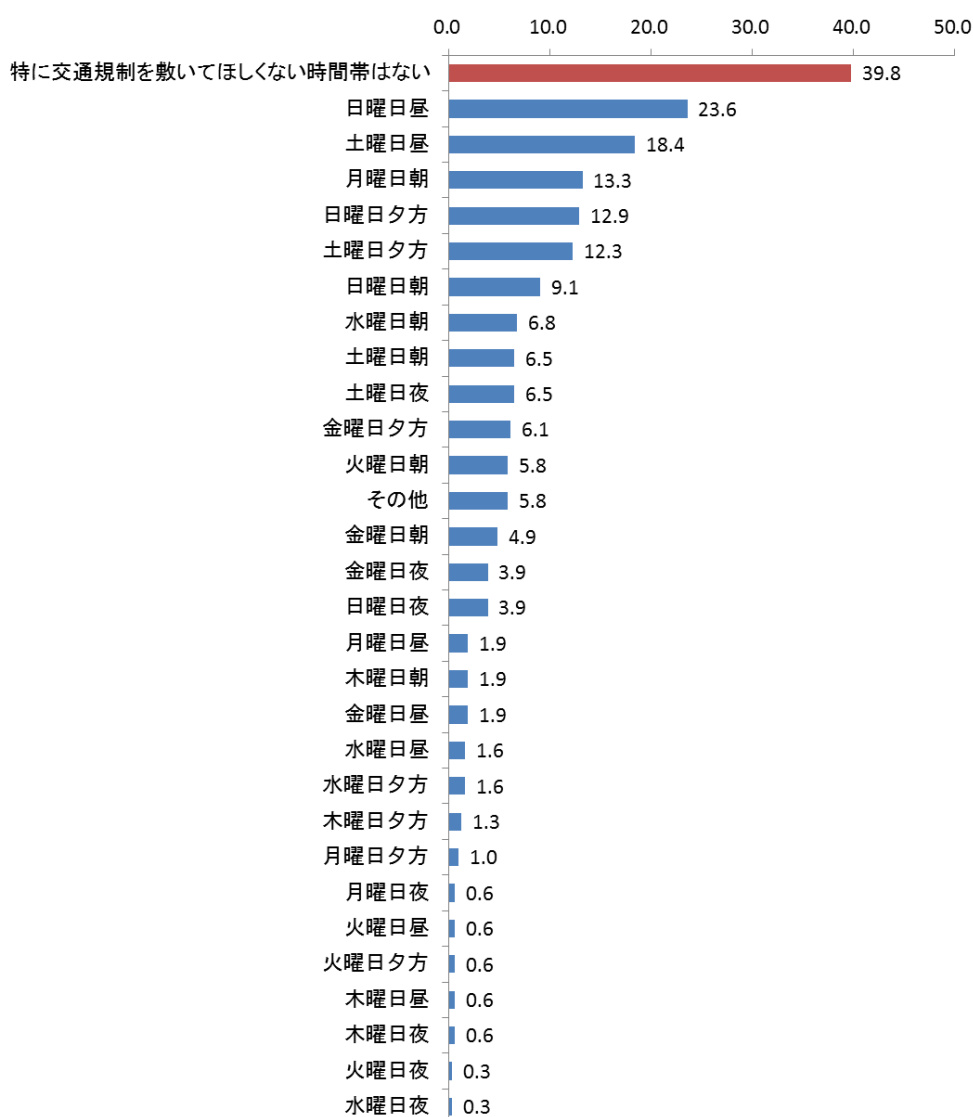
◆観光客誘致で不快に思った経験(複数回答 N=309)



交通規制を避けてほしい時間帯「特に敷いてほしくない時間帯はない」4割
週末の日中、および月曜朝を避けてほしい

20歳以上の京都市民約300名に、マラソンや国際会議など多くの集客交流が見込まれるイベントにおいて、自宅周辺での交通規制を避けてほしい時間帯を3つまで選んでもらったところ、「特に交通規制を敷いてほしくない時間帯はない(39.8%)」が4割となり、「日曜日昼(23.6%)」「土曜日昼(18.4%)」と週末の日中が続ぎ、週末明けの出勤／通学日となり交通渋滞などが気になる「月曜日朝(13.3%)」が上位に入りました。

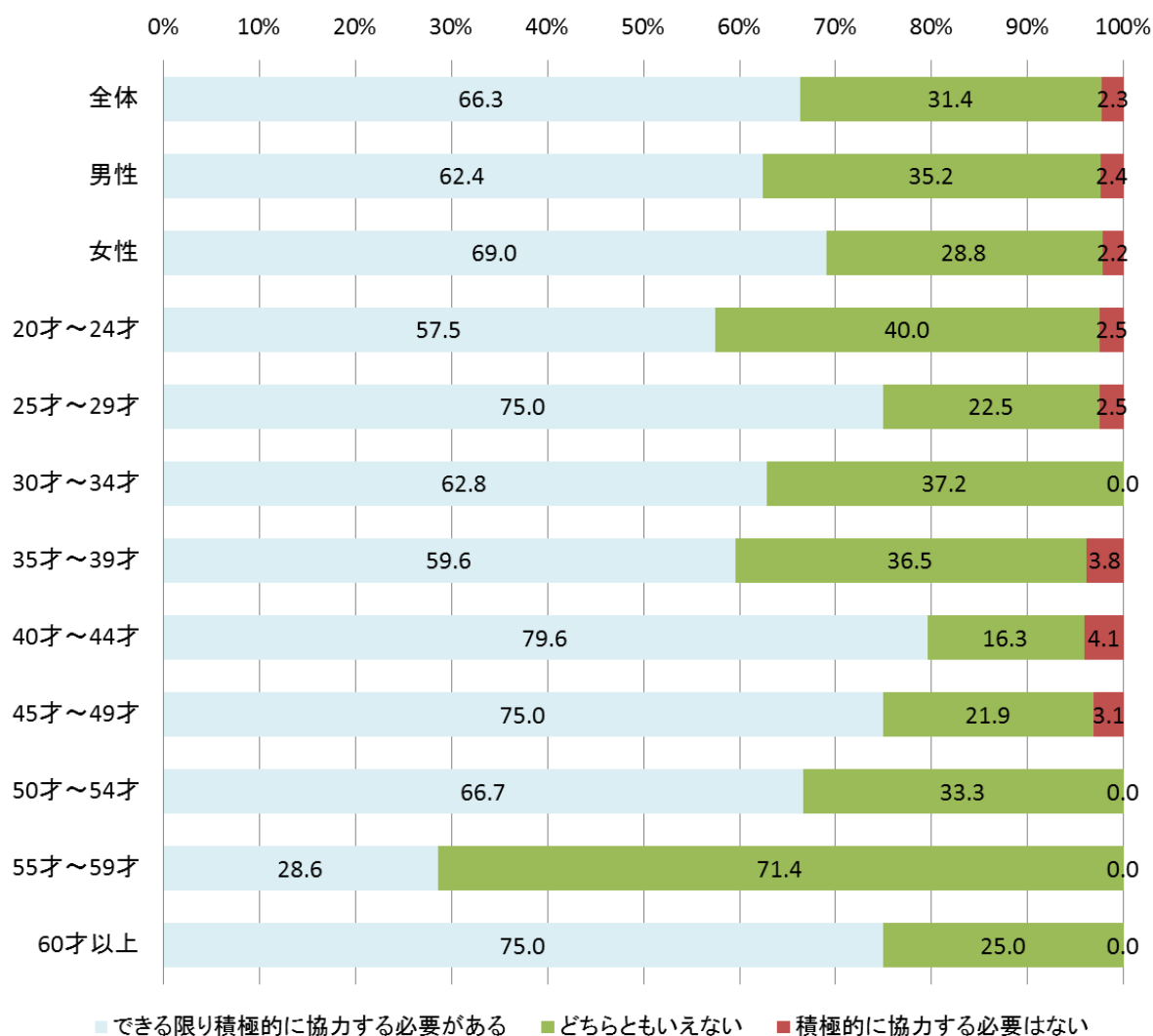
◆交通規制を避けてほしい時間帯(複数回答 N=309)



東日本大震災からの復興支援に対して京都市はできる限り積極的に協力すべき66.3%

3月11日開催の京都マラソンでもチャリティー事業が実施される東日本大震災からの復興支援について20歳以上の京都市民約300名に、東日本大震災からの復興支援に対する京都市の協力のあり方について近い考えを聞いたところ、「できる限り積極的に協力する必要がある(66.3%)」と答えた市民が3分の2を占め、京都市が進める復興関連事業に理解が集まっていることが分かりました。

◆東日本大震災からの復興支援に対する京都市の協力のあり方(複数回答 N=309)



瓦礫を含む災害廃棄物受け入れ、「受け入れるべき」4割弱と慎重な見方

20歳以上の京都市民約300名に、瓦礫などの災害廃棄物の受け入れについて考えを聞いたところ、「受け入れるべき(39.8%)」「どちらともいえない(39.5%)」「受け入れるべきでない(20.7%)」という結果となりました。

子供を持つ方は「受け入れるべき(38.2%)」という意見は子供を持たない方(41.0%)より高いものの、「受け入れるべきでない(16.9%)」という意見は子供を持たない方(23.7%)より低くなりました。

◆京都市による瓦礫を含む災害廃棄物の受け入れについて(複数回答 N=309)

